

現代経営学応用研究(アントレプレナーファイナンス)

2015年度 後期 金 5・6限(18:20-21:30)

担当教員 忽那憲治、山本一彦、保田隆明 単位数 1

授業のテーマと目標

ベンチャー企業のアントレプレナーは、不確実性の高い事業環境で高度な経営的意思決定を行うために、「ビジネスプランニング」とそのための「ファイナンス」に関わる知識の習得が不可欠です。もちろん、こうした知識は独立系ベンチャー企業のアントレプレナーのみに求められるものではなく、企業のなかで新規事業を創造するコーポレート・アントレプレナーや、大学発ベンチャーを運営するアカデミック・アントレプレナーにとっても不可欠なものです。いくら素晴らしい事業アイデアや技術を持っていても、「ビジネスプランニング」の知識なくしては、アイデアを事業計画に展開することはできません。さらに、ファイナンスの知識なくしては、成長のためのリスク資金を調達することも、株式公開や M&A という投資回収に向けた有効な資本政策を考えることもできません。

ベンチャー企業にリスク資金を供給するベンチャーキャピタリストにおいても、投資先企業に対して付加価値の高いサービスを提供するためには、ビジネスプランニングやファイナンスに関する理論に基づいた行動が重要です。

授業の概要と計画

講義の回数に限りがあるため、本講義では、①ビジネスプランニング、②アントレプレナーの活動段階、③ベンチャー企業のファイナンスの3つのテーマに絞ります。第1回と第4回の講義では、上記の3つのテーマに関連するケース2つ(1つは①ビジネスプランニングに関連するケース、もう1つは②バイオベンチャー企業のビジネスプランと資金調達に関連するケース)を用いて、アントレプレナーおよびベンチャーキャピタリスト当事者としてどのような意志決定を行うかの議論を受講生全体で行います。この2回の講義は、①担当教員からの基礎知識の説明、②ケースに関するグループ討論、③ケースに関する全体討論の順番で進めます。講義において活発なグループ討論や全体討論を行うことができるかどうかは、講義前に実施する個人研究の準備がどれくらい深く実施できているかによります。十分な予習をし、自分の意見をレポートにまとめて出席してください。グループ討論は4~5名程度のグループを組織して行います。メンバーについては毎回の講義で決めることにします。

第2回と第3回の講義では、ゲスト講師および特任教員から実際のビジネスを題材に講義を行い、討論を行います。第2回講義はアントレプレナー、第3回講義はベンチャーキャピタリストを予定しています。

講義内容

■受講を考えるに当たって

アントレプレナーシップ(企業家活動、企業家精神)の重要性やわが国の現状について理解していた

だくために、まずは下記の文献を読んでみてください。これらを読んで、アントレプレナーシップの学習の必要性を感じた人は、是非受講してください。

ティナ・シーリグ『20歳のときに知っておきたかったこと スタンフォード大学集中講義』阪急コミュニケーションズ、2010年。

ウィリアム・バイグレイブ、アンドリュー・ザカラキス『アントレプレナーシップ』日経BP社、2009年、第1章「起業家革命の時代」

忽那憲治『中小企業が再生できる8つのノウハウ』朝日新聞出版、2010年、序章と終章

■第1回(2月12日) ビジネスプランニング:担当 保田

【テーマ】

1. 優れたビジネスプランとは、どのようなものか。
2. 競争力のあるビジネスモデルを構築するにあたって、どのような要素を検討する必要があるのか。
3. 競争力のあるビジネスモデルかどうかをチェックするにあたって、どのような方法を用いればよいのか。

【第1回講義で取り上げるケースと課題】

ウィリアム・バイグレイブ、アンドリュー・ザカラキス『アントレプレナーシップ』日経BP社、2009年、第7章のケース「ピーコリーノ」を取り上げます。上のケースを読んで、下記の2つの質問について自身の考えをレポートA4、5枚にまとめ、講義開始前にTAに提出してください。課題レポートをまとめる際、忽那憲治『中小企業が再生できる8つのノウハウ』朝日新聞出版、2010年、のノウハウ1(40ページ～65ページ)で説明している手順の1から3に従って分析を行ってください。

質問1:このビジネスプランの優れている点を3つ指摘してください。

質問2:このビジネスプランの改善が必要な点を3つ指摘してください。

■第2回(2月19日) ビジネスプランニング(ゲスト講師の講演と討論):担当 保田

【テーマ】

1. 第1回講義で学習し、議論した内容を踏まえ、新規事業を立ち上げたアントレプレナーをゲストに招き、討論を行います。アントレプレナーとの議論を通じて、自分の分析の妥当性を確認してみてください。

【第2回講義で取り上げるケースと課題】

ゲスト講師は、モノづくり系マッチングプラットフォーム「リンカーズ(Linkers)」の代表取締役社長の前田佳宏氏です。リンカーズのビジネスモデルを分析し、自身の考えをレポートA4、5枚以内にまとめ、講義開始前にTAに提出してください。分析ツールの一例を参考資料としてBeefにアップしておきま

す。分析に用いる情報は未公開企業であるため限られますが、下記のウェブおよび新聞記事の検索（日経テレコンなどの活用）などを利用して行ってください。講義では、リンカーズの代表取締役社長の前田佳宏氏の講演 60 分、グループ討論 30 分、全体討論 90 分を予定しています。

<https://linkers.net/>

<https://linkers.net/tops/about/owner>

■第 3 回(2 月 26 日) ベンチャー企業、アントレプレナーとファイナンス:担当 忽那、山本

【テーマ】

1. ベンチャー企業とは何か？
2. アントレプレナー、ブレークスルー、イノベーションとは？
3. ベンチャー企業の成り立ちと成長、ファイナンス
4. ベンチャーキャピタルの歴史と仕組み

ベンチャー企業、アントレプレナーのファイナンスに関する講義を行います。リスクの高いイノベーションに挑戦、実現することによって社会的・経済的価値を創出するためには、そのリスクに耐えることができるリスクキャピタルの調達が不可欠です。第 3 回講義では、日米のベンチャー企業の現状比較からはじまり、アントレプレナーの活動段階におけるブレークスルーとイノベーションの違い、ベンチャー企業のファイナンス・プロセスやベンチャーキャピタルの概要などを幅広く学びます。

【第 3 回講義の予習と課題】

受講に際しては、忽那憲治、山本一彦、上林順子編著『MBA アントレプレナー・ファイナンス入門』の第 1 章 1.1「ファイナンスとアントレプレナー」と 1.3「ベンチャー企業の組成と成長」を事前にしっかりと読んで予習して参加することが前提となります。課題として、第 3 回と第 4 回のテキストの予習範囲（第 1 章 1.1、1.3、1.4）についてその内容をレポート A4、5 枚にまとめ、講義開始前に TA に提出してください。

【テキスト】

忽那憲治、山本一彦、上林順子編著『MBA アントレプレナー・ファイナンス入門』中央経済社、2013 年。

■第 4 回(3 月 4 日) ベンチャー企業のビジネスプランとファイナンス 担当 忽那、山本

【テーマ】

1. ベンチャー企業のビジネスプラン

2. バイオベンチャー企業のビジネスプランとファイナンス

【第4回講義で取り上げるケースと予習】

第4回講義では、まず最初に、第3回の講義で学習した知識を元にして、ベンチャー企業のビジネスプランの概要とその特徴を学びます。その後で、アーリーステージのバイオベンチャー企業の具体的事例を取り上げ、同社の創業社長よりプレゼンテーションを行ってもらった上で、そのビジネスプランとファイナンスについて討論を行います。講義45分、プレゼンテーション45分、グループ討論45分、全体討論45分を予定しています。

受講に際しては、忽那憲治、山本一彦、上林順子編著『MBA アントレプレナー・ファイナンス入門』の第1章 1.4「事業計画書」をしっかりと読んで予習して参加することが前提となります。ケースの対象となるバイオベンチャー企業の参考資料等については、第3回講義の終了後にホームページ上にアップしますので、こちらについても事前に入手して読んで上で講義に参加して下さい。

【テキスト】

忽那憲治、山本一彦、上林順子編著『MBA アントレプレナー・ファイナンス入門』中央経済社、2013年。

【最終課題レポート】

第4回講義を受講し討論して、ケースのバイオベンチャー企業のビジネスプランとファイナンスについて自身の考えをレポートA4、5枚にまとめ、3月12日(土)の17時までに教務に提出してください。

成績の評価方法

課題レポート(4回)	80%
出席	20%

■第1回から第4回の課題については、A4で5枚にまとめたレポートを提出してください。課題提出についての評価が20点×4回=80点(レポートは0、5、10、15、20点の5段階で評価します。)

■出席点が、5点×4回=20点

期末試験は実施しません。

講義資料

講義では、基礎知識の説明に関して、担当教員が作成したパワーポイントのスライドを使用します。このファイルについても、受講生にはファイル形式で配布致します。紙ベースでの配布はしませんので、各自印刷して講義に出席してください。ファイルはBEEFから入手してください。

受講生へのメッセージ

- ケース討論およびゲスト講師との討論に積極的に参加しようという意志のある学生の受講を希望します。
- アントレプレナーファイナンスに関する講義ですので、単に単位修得のためというのではなく、何事にも積極的に、創造的に取り組む気概のある学生、企業家精神に富む学生の受講を希望します。
- 講義開始から 40 分まで(19:00 まで)は遅刻を認めます。それ以降の教室への入室は、ケースのグループ討論への参加に影響を与えますので、認めません。したがって欠席扱いとなります。4 回の講義のうち 1 回の欠席は認めますが、欠席 2 回で単位修得の資格を喪失します。
- 本講義の内容についてのより踏み込んだ学習および実践への応用可能性の研究を希望する人は、担当教員(忽那憲治)が指導するアントレプレナーファイナンス実践塾のプログラムを参照してください。
<http://www.b.kobe-u.ac.jp/kutsuna/entre>
- 質問があれば、hoda@port.kobe-u.ac.jp(保田隆明)まで連絡をください。